

【使徒書日課】 エフェソの信徒への手紙 1章15～23節

¹⁵こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、¹⁶祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。¹⁷どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、¹⁸心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。¹⁹また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。²⁰神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、²¹すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。²²神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。²³教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

【福音書日課】 ヨハネによる福音書 17章1～13節

¹イエスはこれらのことを話してから、天を仰いで言われた。

「父よ、時が来ました。あなたの子があなたの栄光を現すようになるために、子に栄光を与えてください。²あなたは子にすべての人を支配する権能をお与えになりました。そのために、子はあなたからゆだねられた人すべてに、永遠の命を与えることができます。³永遠の命とは、唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです。⁴わたしは、行こうようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。⁵父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が造られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。」

⁶世から選り出してわたしに与えてくださった人々に、わたしは御名を現しました。彼らはあなたのものでしたが、あなたはわたしに与えてくださいました。彼らは、御言葉を守りました。⁷わたしに与えてくださったものはみな、あなたからのものであることを、今、彼らは知っています。⁸なぜなら、わたしはあなたから受けた言葉を彼らに伝え、彼らはそれを受け入れて、わたしがみもとから出て来たことを本当に知り、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じたからです。⁹彼らのためにお願いします。世のためではなく、わたしに与えてくだ

さった人々のためにお願いします。彼らはあなたのものだからです。¹⁰わたしのものはすべてあなたのもの、あなたのものはわたしのものです。わたしは彼らによって栄光を受けました。¹¹わたしは、もはや世にはいません。彼らは世に残りますが、わたしはみもとに参ります。聖なる父よ、わたしに与えてくださった御名によって彼らを守ってください。わたしたちのように、彼らも一つとなるためです。¹²わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。¹³しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

主イエスは天を仰いで【こども説教のために】

イースターにご復活くださった主イエスは、幾度も弟子たちの間に現れてくださった後、四十日目に弟子たちから離れられ、天に昇られました。天の御父の御もとに行かれたのです。もともと御父の子として御もとにいらした主イエスが、人の生きる世界に来て為されるべきことを為し終えられたならば、最後に御父の御もとにお帰りになられるのは、当然のことでした。御父と御子は一つでいらっしやるからです。

もちろん、人の世においでの間も、主イエスは御子として御父と一つの思いでいらしたのです。とは言え、この世界にいるほとんどの人は、天の御父からは遠く離れて生きている者ばかりです。この世界で生きている限り、毎日の生活で目に入ってくることは、天のことで御父のことでなく、地上で行われている人の為すことばかりだからです。日々の生活に忙しくしていたのでは、わたしたちは、天の御父を憶えることも、御父の御言葉を思い起こすことも、御父の御心に従って何かを為すことも、後回しになってしまうのです。そのようなわたしたち人間のただ中においでくださった主イエスは、御子でありながら、わたしたちと同じ思いを持つ人として、弟子たちの傍らを歩んでくださったのです。御父と一つの思いでいらっしやる主イエスのことを、弟子たちは理解できないこともありましたが、主イエスが弟子たちを見捨てられませんでしたから、弟子たちは、主イエスと深い結びつきを持たせていただくようになりました。主イエスの御言葉を守り、主イエスと一つとされる道を歩むようにさせていただいたのです。

その主イエスが弟子たちのもとを離れられるときが来ました。弟子たちを前に、主イエスは、**天を仰いで**お語りになられています。弟子たちのただ中で、天の御父に目を向け、心を向けて、御父と一つの思いになられています。わたしたちは、この主イエスと一つにされるように導かれているのです。

一つとなるため

教会は、聖霊降臨の祝い（ペンテコステ）を前に主の昇天を記念します。ご復活くださった主イエスは、弟子たちと四十日の間、共に過ごしてくださった後に、天に昇られたと伝えられています（使徒1章）。そのとおりに、主のご復活を祝う「イースター」から四十日目の木曜日を「昇天日」として祝い、記念するのです。現代でも多くの国々で「主の昇天日」が祝日とされています。「昇天日」が祝日となっていない国では、続く日曜日、「聖霊降臨日」の前の日曜日を「主の昇天」を記念する主日としてきました。

主イエスが天に昇られたとき、最後に見届けたのは使徒たちでした（使徒1:6以下）。そのときの使徒は、主イエスが弟子たちの中からお選びくださった十二人のうち、最後に離れてしまったイスカリオテのユダを除く十一人です。彼らは、ご復活くださった主イエスが現れてくださったので、一つになって集まり続けていました。ご復活の主がお語りくださることに耳を傾けるためです。

その主イエスは、使徒たちに語るべきことを語り終えられると、使徒たちが見ているうちに天に上げられた（同1:9）のです。天に上げられた主イエスは、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった（同）と言います。おそらく、そのことは、部屋の中で起こったのではなく、屋外でのことだったのでしょう。「使徒言行録」が示唆するのは、エルサレムの町を出て谷を隔てた向うにある「オリーブ山」です（同1:12）。「マタイによる福音書」は、そのとき使徒たちが集まりご復活の主のお語りくださることを聞いていたのは、エルサレムではなくガリラヤ地方の「イエスが指示しておかれた山」（マタイ28:16）であったと示唆しています。

いずれにしても、主イエスが天に昇られる前に使徒たちに指示されていたことがありました。「聖霊」のこと、そして「洗礼」のことです。「使徒言行録」は、主イエスが「あなたがたは間もなく聖霊によって洗礼を授けられる」（使徒1:5）とお告げになられて、天の御父がお約束くださった聖霊の降臨を待つように指示なさったと伝えています。「マタイ福音書」は、「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け…」（マタイ28:19）なさいと命じられたと伝えています。

使徒たちの教会は、そのようにご指示くださって天に昇られた主イエスの御言葉に従って、約束の聖霊を待ちました。聖霊のご降臨を知り、主イエスの名のもとに集められて来た人々に洗礼を授けました。聖霊によって一つの集まりとされ、洗礼によって主イエスと一つに結ばれる者となったのです。

使徒たちは、主イエスが天にお昇りになられること無しに、そうすることはなかったでしょう。昇天される主がご指示くださり、そうしたのです。

教会はキリストの体

主イエスが天に上げられたとき、使徒たちは、雲に覆われて見えなくなるそのお姿を見届けたと言います。そのとき、彼らは天を見つめていた（使徒1:10）のです。それは、傍から見ると不思議な光景だったのかもしれませんが。何もない虚空を十一人の大人がぼんやりと見上げているのです。そこに居合わせた者がいました。「白い衣を着た二人の人」（同）と言われていましたから、天使だったのかもしれませんが、分かりません。彼らは、虚空を見上げている使徒たちに語りかけたのです、「なぜ天を見上げて立っているのか」（同1:11）と。何も見えない虚空を、そこに浮かぶ雲を、大人の集団が何も言わずに見上げていれば、だれでもそう言いたくなるでしょう。

けれども、使徒たちは、考えていたのかもしれませんが。「自分たちがまだ主イエスと共にいたとき、十字架につけられる前、主イエスが天を仰いでお語りになられたことがあった」と。「主イエスは、いつもご自分が『天から降って来た』とおっしゃっていた」と。

主イエスは、繰り返し、天に向かって目を上げるようにとお教えだったのです。ご自身の目を向けられているところ、天の御父に、弟子たちも目を向けるようにと、天を見上げるようにと、お教えくださっていたのです。弟子たちの目が、天に向くことなく、地上の世界で起こっていることに向かっていくときにも、繰り返し、ご自身の目を天に向けられて、ご自身を通して彼らを天の御父へと向かわせようとしてくださっていたのです。

天に上げられて行く主イエスを見届け、そのお姿が雲に覆われて見えなくなっていったとき、使徒たちは、なお天を見上げながら、何を見ていたのでしょうか。もしかすると、そこに、なお主イエスのお姿を見ていたのではないのでしょうか。天と地を結ぶ大きな主イエスのお姿です。今日の使徒書（エフェソ 1:20~23）でパウロが描くような、天上の御父の右に座してあられながら、その御体が地上にまで及ぶような、空前の大きさをお持ちの主イエス・キリストのお姿を、天に昇られる主イエスのお姿を見届けた使徒たちも、そこで見出していたのではないのでしょうか。

使徒たちの教会は、約束の聖霊を待って、歩み始めました。キリストの御体の一部として地上に集められ、共に歩む者たちの教会です。わたしたちもその一枝として連なるようにされてきました。この教会も、キリストの御体の一部として、天につながれているのです。聖霊によって、天と地を結ぶ者とされます。洗礼によって、キリストの御体に結ばれた者とされます。

礼拝堂の天窓は、天につながれているしるしです。聖壇の聖餐桌は、天の食卓と一つにされているしるしです。ここに集められて来た者は、今、天の御父の前に、キリストによって一つにされているのです。